

広報

うわじまちくしょうぼう

第81号

宇和島地区消防本部
宇和島地区防火協会
<http://www.119.uwajima.nanpu.or.jp/>

秋の火災予防運動

秋の全国火災
予防運動
11月9日～11月15日

11月9日(木)～11月15日(水)

「火の用心 ことばを形に 習慣に」

【住宅防火 いのちを守る 7つのポイント】

- 3つの習慣
 - 1 寝たばこは、絶対やめる。
 - 2 ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
 - 3 ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 4つの対策
 - 1 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
 - 2 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。
 - 3 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
 - 4 お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



平成29年上半期の火災・救急速報



火災概況

前年より11件の増加！たき火が急増中！

平成29年上半期の宇和島地区管内で発生した火災は25件で、前年の14件に比べ**11件の増加**となっています。また、月平均出火件数としては4.16件となり、およそ7日に1件の割合で火災が発生したことになります。

火災種別では、建物火災13件、林野火災4件、車両火災1件、船舶火災1件、その他火災6件となっています。出火原因では、**たき火7件**、配線器具3件、電灯電話等の配線2件、ストーブ2件などとなっています。

宇和島地区管内では**たき火による火災が急増**しています。

救急概況

その119番、本当に必要ですか？

平成29年上半期の救急出場件数は2,457件で、前年の2,377件に比べ80件の増加となっており、搬送人員も2,273人と前年の2,250人に比べて23人増加しています。また、1日あたりの平均出場件数は13.5件で、1日あたりの平均搬送人員は12.5人となっています。

事故種別では、最も多いのが急病で1,676件、次いで一般負傷370件、転院搬送222件、交通事故139件などとなっています。

なお、**救急車で搬送された人の約38%は軽症**です。この中には、本来、救急車が必要でなかった人や、救急車をタクシー代わりに利用する方も含まれている可能性があります。

少年消防クラブ夏季研修

今年も7月26日、27日の2日間、愛南町の山出憩いの里温泉キャンプ場において、鶴島小学校少年消防クラブ・住吉小学校少年消防クラブ・みどり寮少年消防クラブ合同で夏季研修を行いました。参加したクラブ員34名は、AEDの取扱いを交えた心肺蘇生法、毛布を利用した搬送訓練、訓練用消火器を使った消火訓練など、夏の日差しを浴び、楽しく、お互いに協力しながら学ぶことができました。少年消防クラブ員の今後の活躍が非常に楽しみです。



心肺蘇生法の研修



毛布を利用した搬送訓練

不審な電話にご注意ください！



消防をかたる不審な電話が相次いでいます

管内で、消防をかたる人物から「一人暮らしの方に、防災グッズを配布しているので送ります。住所を教えてください。」などという不審な電話があったとの相談が消防に寄せられています。消防では、**防災グッズの販売や配布などの目的で住所、氏名、世帯情報などの個人情報を探ることはありません**。悪質な電話セールスや振り込め詐欺に利用される可能性もあることから、消防をかたる不審な電話に注意して下さい。

【不審な電話の特徴】

1. 消防をかたり、あたかも消防関係者からの連絡に思わせる。
2. 住所、氏名、世帯情報などの個人情報を探る。
3. 一人暮らしの高齢者宅を対象に連絡しているように思わせる。
4. 防災グッズの販売または配布が目的かのような話をする。

お問い合わせ、ご相談は消防まで：**22-7500**

防災フェアを開催！

9月23日(土) 宇和島市中央町2丁目「ふれあい広場」にて市民の皆様に地震、火災等の恐ろしさと、備えの重要性を理解してもらうことを目的として「防災フェア」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、たくさんのご家族の来場がありました。会場には地震体験車、煙体験テント、防災・消火訓練や車両展示などのコーナーを設け、市民の皆様に色々な体験をしていただきました。一番の人気は「はしご車体験搭乗」で、こども達は目を輝かせながら、地上20mの世界を楽しんでいました。各コーナーでの体験を通して防災に関する知識や技術を少しでも市民の皆様にお伝えすることができたと感じています。知りたい情報は、パソコンやスマートフォンで簡単に入手でき、様々な情報が溢れている現代ですが、情報の多さに惑わされることなく、災害を正しく理解し、正しく恐れることができるようになるための第一歩として、「防災フェア」での体験が役立てば嬉しく思います。



1番人気！はしご車体験搭乗



本物さながらのリアルな揺れ！



煙の怖さを体験！

火の用心！

冬は火災の多い季節です

冬になると鍋をするためのカセットコンロや、ストーブなどの暖房器具で火を扱う機会が増えます。寒い冬の時期に欠かせない暖房器具、なかでも電気ストーブは給油の必要もなく手軽に部屋を暖められるため、使用している方も多いのではないのでしょうか。しかし、その方法を間違えると、**火災の原因**にもなります。

【ストーブ火災を防ぐポイント】

1. ストーブの周囲は、常に整理整頓を！
2. 寝るとき、その場を離れる時は火を消す習慣をつける。
3. 燃えやすい物の近くでストーブを使用しない。
4. 使用しないときは電源プラグを抜いておく。(電気ストーブ)
5. 異常を感じたら使用を停止する。

取扱いに十分注意して、ストーブ火災を防ぎましょう

消防からのお知らせ



住宅用火災警報器の電池が切れていませんか？



住宅用火災警報器の普及に伴い、電池切れ等による警報音を火災と間違えて、119番通報をされるケースがあります。通報する前に、周囲を確認し、まず「火事」か「火事でない」かを調べましょう。

住宅用火災警報器は10年を目安に交換しましょう

どうして交換しなければいけないの？

住宅用火災警報器の電池の寿命は、一般的なもので約10年と言われています。『電池切れならば、電池を交換すれば良いのでは？』と思われるかもしれませんが、古くなると本体内部の電子部品の劣化により、火災を感知しなくなるおそれがあります。皆様だけでなく、皆様の大切なご家族や財産を守るためです、10年を目安に本体を交換しましょう。

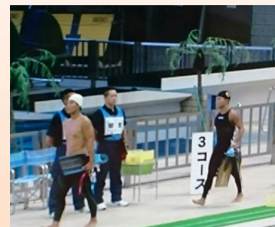
全国大会入賞！

猛者どもの集う、夢の舞台で活躍！

8月23日(水)宮城県で開催された「第46回全国消防救助技術大会」に当消防本部から山光裕也消防士が、水上の部「複合検索」に出場しました。約3か月間、厳しい訓練を重ねてきた山光消防士は、地区大会を圧倒的な力で勝ち上がり、全国大会当日は自己記録を更新し、**見事入賞を果たしました。**これからの宇和島消防を背負っていく若い力の活躍に今後も目が離せません。



山光裕也消防士



全国大会の様子



「複合検索」とは、マスク、スノーケル及びフィンを装着し、スノーケリングで障害物を突破しながら水中のリング4個を検索し、引揚げるまでの安全性と所要時間を評価する種目です。

Q&A

電池切れのサインは？



「電池切れです」の音声または「ピッ」との警報音によりお知らせします。メーカーによって異なりますので、取扱説明書でご確認下さい。

10年たったたら、とりかえろ。

【設置時期を調べるには】

火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」、または、本体に記載されている「製造年」を確認してください。